

第2回 医療機器市民フォーラム

「小さく治そう！最新の医療」 ～医療機器で小さいうちに診断、小さく治療～

主催：日本医療機器産業連合会
<http://www.jfmda.gr.jp/>
医療技術産業戦略コンソーシアム(METIS)
<http://www.jfmda.gr.jp/metis/>
後援：厚生労働省、経済産業省、文部科学省

医療機器が実現する小さく治す医療

患者への負担を減らし 生活の質を向上させる治療を

「画期的な医療機器の開発によって、いかに治すかが問われる時代となりました。より痛みが少なく、より美しく、より早く治療し、患者さんの生活の質をいかに向上させられるかが医療の課題となっています。」——日本医療機器産業連合会会長・和地孝氏の挨拶で幕を開けた「第2回医療機器市民フォーラム」。最新の医療機器と医療技術を紹介するこの試みは、今年も高い関心呼び、会場は大勢の一般参加者で埋め尽くされた。ここでは、小さく治す医療で日本を代表する3人の医師、北里大学医学部外科教授・渡邊昌彦氏、湘南鎌倉総合病院副院長・齋藤滋氏、国立がんセンター総長・垣添忠生氏の講演、そして豪華ゲストを加えたパネルディスカッションで構成されたプログラムを抄録する。(開催/14日有楽町朝日ホール)

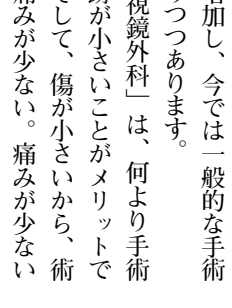
内視鏡で小さく治す



わたなべ 昌彦氏
北里大学医学部外科教授

今や日本人の死因の3人に1人は、がんです。中でも胃がんは長年死亡率が最も高いが、2015年頃に罹患者がトピーとなつていわれています。これら消化器系のがんを小さく治すには、2つの方法があります。1つ目は、口または肛門から内視鏡を挿入してがんを切り取る「内視鏡的切除」です。しかし、この方法は、リンパ節転移がない早期がんに限定されます。2つ目は、お腹に小さな穴をあけて直徑5mmの内視鏡を挿入し、カメラでお腹の中の状態をモニターに映しながら手術する「内視鏡外科」です。こちらは、リンパ節転移の可能性があるがんでも可能です。

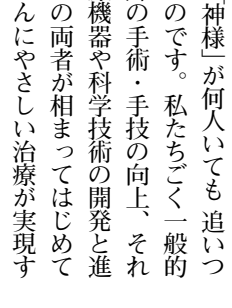
TRTで命を守る



ふじい 忠生氏
国立がんセンター総長

現在、心臓の診断はさまざまな方法が開発されています。例えば、マルチスライスCT(X線の検出器を複数用いる短時間で多くの断面を撮影できるCT)を使い、心臓の血管(冠動脈)を3次元で把握します。これにより、心臓の上部に張りめぐらされた冠動脈もつきり見えるようになりました。

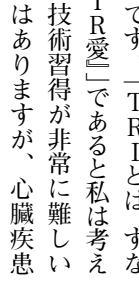
医療機器の進歩が不可欠



たなべ 大空氏
国立がんセンター総長

「小さく治す」とは、「肉体的にも、精神的にも、経済的にも負担が少なく、美しく短期間に治す」ことをいいます。それを支えるのは、病気になる前の理解と医療機器の進歩であり、この2つが診断・治療の進歩には不可欠です。

パネルディスカッション 医療機器が実現する 小さく治す医療



おおぞら 真弓氏
女優

田辺 大空さんはいくつもがんを経験されているそうですね。大空 4回患いましたが、私の病院が好きで、すべて早期に発見されました。がんは病気自体が怖いのではなく、がんが見つけないことが怖いのだと思います。早く見つかれば、モグラたたきのようにやっつけてしまえばいいのです。

がんの診断

「がんの診断には、画像診断とマーカー診断の2つの方法があります。画像診断はMRI、CTの開発により飛躍的に進歩しました。最近では、PET-CT(糖質)を目印をつけて体内に注射し、がんの存在を把握する検査)が注目されています。それだけでは位置情報が足りません。そこで、体内の位置を正確にとらえられるCTと組み合わせ、PET-CTが使われるようになっていきました。このように複数の機器を併用することにより、診断の精度はさらに向上します。

治療

次にマーカー診断についてですが、がん細胞が直接分泌する物質や、がん増殖に伴って体内に増えてくる物質などといった腫瘍マーカーを複合的に評価することができ、がんの早期発見が飛躍的に増え、特に、診断も治療も最も難しいといわれるすい臓がんについては、血液プロテオーム(血液中の微量タンパク質を質量分析機で解析する方法)を使えば、正診率が91%まで向上しました。

がんの診断

「がんの診断には、画像診断とマーカー診断の2つの方法があります。画像診断はMRI、CTの開発により飛躍的に進歩しました。最近では、PET-CT(糖質)を目印をつけて体内に注射し、がんの存在を把握する検査)が注目されています。それだけでは位置情報が足りません。そこで、体内の位置を正確にとらえられるCTと組み合わせ、PET-CTが使われるようになっていきました。このように複数の機器を併用することにより、診断の精度はさらに向上します。

治療

次にマーカー診断についてですが、がん細胞が直接分泌する物質や、がん増殖に伴って体内に増えてくる物質などといった腫瘍マーカーを複合的に評価することができ、がんの早期発見が飛躍的に増え、特に、診断も治療も最も難しいといわれるすい臓がんについては、血液プロテオーム(血液中の微量タンパク質を質量分析機で解析する方法)を使えば、正診率が91%まで向上しました。



がん予防・検診センター 2004年2月～2006年1月1年間の実績

がん予防・検診センター 2004年2月～2006年1月1年間の実績

がんの本態がまだよくわかっていないのは、がん細胞を1つ残らず取り除くために大きな手術が行われてきた。それが、次第にがんの性質が解明され、機器や技術の進歩にあわせて、できるだけ小さな手術を行うようになり、がんの早期発見が飛躍的に増え、特に、診断も治療も最も難しいといわれるすい臓がんについては、血液プロテオーム(血液中の微量タンパク質を質量分析機で解析する方法)を使えば、正診率が91%まで向上しました。



【パネルディスカッション】医療機器が実現する小さく治す医療

世界が変わり、それが技術を補うわけですね。また、超音波メスなどを使うと難しい手術も可能になります。一般の医師もさきほどしたトレーニングを積み、そのような良い機器を使えば、安全に手術できる時代になりつつあるのではないのでしょうか。

医療機器が実現する 小さく治す医療

世界が変わり、それが技術を補うわけですね。また、超音波メスなどを使うと難しい手術も可能になります。一般の医師もさきほどしたトレーニングを積み、そのような良い機器を使えば、安全に手術できる時代になりつつあるのではないのでしょうか。

医療の進歩に貢献する サクラグループ。

がんの早期診断、感染防止



大腸がん撲滅キャンペーン

オリンパスは、「BRAVE CIRCLE」大腸がん撲滅キャンペーンを推進しています。

特別協賛企業
OLYMPUS
Your Vision, Our Future

一般協賛企業
東芝メディカルシステムズ株式会社
日本光電工業株式会社
株式会社日立メディコ
瑞穂医科工業株式会社

旭化成メディカル株式会社
アロカ株式会社
エドワーズライフサイエンス株式会社
株式会社カネカ
クリエートメディック株式会社
住友ベークライト株式会社
株式会社ジェイ・エム・エス
スリーエムヘルスケア株式会社
泉工医科工業株式会社

協賛団体
日本医療器材工業会 (医器工)
(社)日本画像医療システム工業会 (JIRA)
(社)電子情報技術産業協会 (JEITA)
日本医療機器販売業協会 (医器販協)
日本医用光学機器工業会 (日医光)
日本眼科医療機器協会 (眼医器協)

出演者プロフィール
●パネリスト
垣添 忠生 (かきぞえ ただお) 【国立がんセンター 総長】
1941年生まれ。1967年東京大学医学部医学科卒業。東京大学医学部泌尿器科、国立がんセンター病院 手術部長などを経て、1992年国立がんセンター中央病院院長に就任。2002年より現職。1980年国立がんセンター 田宮賞、1985年高松宮妃病研究基金 学術賞、2005年日本医師会 医学賞を受賞。

渡邊 昌彦 (わたなべ 昌彦) 【北里大学医学部外科 教授】
1953年生まれ。1979年慶應義塾大学医学部卒業。慶應義塾大学外科学教室、国立がんセンター研究所などを経て、1988年米国ワシントン州立大学留学。帰国後、慶應義塾大学医学部講師などを経て2003年より現職。日本外科学会評議員・指導医、専門医、日本消化器外科学会評議員・指導医、専門医、日本癌学会評議員、日本癌治療学会評議員、日本大腸肛門病学会評議員・指導医、専門医、日本内視鏡外科学会理事。

大空 真弓 (おおぞら まゆみ) 【女優】
1940年生まれ。東京都出身。東洋音楽高校卒業後、新東宝入社。近江俊郎監督「坊ちゃん天国」でデビュー。1962年に東京映画と専属契約を結ぶ。1964年第3回日本放送作家協会女性演技賞受賞、1990年第15回菊田一夫演劇賞受賞。その後主に舞台、テレビを中心に活躍を続けている。著書に「大空真弓、多重がん、撃退中!」がある。

田辺 功 (たなべ いさお) 【朝日新聞社編集委員】

TERUMO
人にやさしい医療へ

テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-44-1
<http://www.terumo.co.jp/>
●コーディネーター